

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390101511		
法人名	株式会社 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 みやす二番館		
所在地	岡山県岡山市東区吉井208番地1		
自己評価作成日	平成26年 6月 9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区津高628-1		
訪問調査日	平成 26 年 6 月 25 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は桜梅桃里の理念のもと、入居者様やそのご家族様と、十分にコミュニケーションを取り、お互いの人生を尊重し認め合いながら、本当の家族のように暖かい雰囲気の中で暮らせるグループホームを作っていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あなたらしく生活出来る場所」であり、心安らぐ穏やかな暮らしがしてもらいたいとの思いで設立されたグループホームです。職員間のチームワークも良く、入居者が希望の生活ができるよう日々支援されています。利用されている方も男女ほぼ半々で夫婦の方は奥さんを気遣いながら、皆さん仲良く笑顔で穏やかに過ごされているようでした。開所一年未満なので管理者を中心に「まだまだこれからです」と言いながら入居者の生活の質の向上をめざして頑張られている様子が窺われました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	桜梅桃李の理念をスタッフ全員が共有して、入居者様やご家族個人のその人らしさを大切にしている	事業所の理念を毎月の会議時に確認して、全職員で理念を共有して、日々の支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学校の運動会、地域の行事(お祭り)等に積極的に参加している。日常的に散歩に出て地域の人達と挨拶を交わしたり話をしている。	地域や小学校の行事への参加、近所の神社へのお参り、散歩中に地域の方に挨拶等をして地域の一員として交流はしているが、町内会のつきあいとまでは至っていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	老人会の集まりに参加し認知症のケアの啓発に努めている。人材育成の貢献として実習生の受け入れも定期的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、結果報告を掲示している。その会議での意見聴取したものをサービスに反映している。	開所が昨年10月なので、2か月に1回の開催は出来ていないが、状況等について報告や話し合いを行い、会議での意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議開催曜日の工夫(平日と休日を交互にする等)しながら、家族や市町村の意見等を参考にサービスの向上に活かしていける事を期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター等へ連絡相談を行い、空き状況や待機状況を伝えている。色々な問題解決の為常に連絡を行うよう努めている。	定期的に事業所の実情等を伝えて、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	色々な研修会に積極的に参加し、身体拘束は絶対にしない思いを統一している。但し危険を伴う場合は、本人家族に説明の上施錠する。	研修会への参加や勉強会等を開くなど、身体拘束の対象となる具体的な行為を理解して、支援に取り組んでいる。	現在家族了解のもと玄関施錠になっているが(何故出ようとするのかを問うて見る等)、常時施錠が必要なのかを検討しこれからも拘束しないケアへの取り組みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止等の研修を行い、問題意識を持つこと。相手に対して丁寧な言葉使いで接する事等で防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する情報を共有し、現在の活用状況を理解していく。後見人と入居者様の関係がスムーズに行くよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約内容の説明を十分に行い、入居後でも不明な点があればいつでも対応できるようにコミュニケーションを密にしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に面会時、運営に関する要望を聞く機会を持ち、入居者様の希望に沿った生活を送れるように支援している。	推進会議の参加時や面会時に常に問いかけて、話がしやすい雰囲気作りをしている。また出された意見要望は会議時に話し合い、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に行う月一回のカンファレンスでは、業務の見直し項目で全員の建設的な意見を聴く機会を持っている。	毎月のカンファレンス会議時に職員から支援の提案や意見を聞く機会をつくり、運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	事業所の本社兼グループホーム事務所で代表者は頻りにスタッフに声かけ挨拶を交わし自由に意見の言える雰囲気作りが出来ている。又、スタッフのストレス要因について気を配り気分転換の出来る休憩室を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報を休憩室にファイルしたり見やすい場所に掲示して自己啓発出来る機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修情報が常にあり、知りえた研修内容をホーム内で勉強会に取り入れて実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握するよう努め、ご本人が求めている事、不安を理解しようと工夫している。サービスの利用について相談があった時は必ず本人に会って心身の状態や思いに向き合い職員が受け入れられる様な関係作りにも努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めている事を理解し、事業所としてはどのような対応が出来るか事前に話し合いをしている。ご家族の苦労や今までのサービスの利用状況など、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞き、落ち着いてもらい次の段階の相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い状況等を確認し改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たずお互いが協働しながら和やかな生活ができるよう場面作りや生活が出来るようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いに寄り添いながら日々の暮らしの出来事や、気づきの情報共有に努め本人と一緒に支える為に、家族と同じような思いで支援している事を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人・知人が気軽に来訪できるよう心がけている。また、馴染みの場所などへドライブに行くよう努めている。	入居者の教え子が遠くから訊ねてこられたり、馴染の場所へ出かけるなど、関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係の情報を連携し、すべての職員が共有できるようにしている。心身の状態や気分、感情で日々変化する事もあるので注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他に移られた場合、これまでの生活環境、支援内容、注意が必要な点について情報共有し、きめ細かい連携を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりに合った声かけをし、顔色・表情・声の様子を見ながら日常生活の中で、本人の希望を傾聴し自己決定しやすいように心がけている。	入居者それぞれの思いや希望に添った生活をしてもらえるよう、日々の関わりの中で把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様の今まで慣れ親しんできた暮らしを尊重しながら愛着のあるものを身近に置き、安心して頂きながら状態、体調を考慮しながら安全に安楽に過ごされるよう援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人が、居心地がよいと思える空間づくりを配慮し、飾り付けや配置を共に考え季節を取り入れながら安全で安心した生活空間の中でその人らしい暮らしが出来るよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に詳細な情報聞くことにより過去歴や趣味や、したい事出来る事を知り、その事をスタッフで共有し知り得た情報を生かせるよう、より理解しケア計画を必要に応じて改善工夫しながら作成している。	本人、家族から思いや意見を聞き、関係職員で話し合い、入居者主体の暮らしを反映した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの生活リズムを知り些細な顔色・表情・言葉・動き方に変化があれば記録に残し、スタッフ同士で共有し実践や介護計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の体調を考慮しながら、訪問理美容や積極的に地域の行事に参加していただきながら柔軟なサービスをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2～3回地域の行事に参加させて頂いたり、又は施設の方へ慰問に来ていただいたり交流がはかられています入居者様は交流を楽しみにされています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	委託医とスタッフ看護師、職員が密に連絡を取り合ってお家族入居者様の納得のいくように支援している。	内科等は往診での受診になっているが、専門科への受診は必要に応じて家族と同行して普段の様子や変化を伝えるなど、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で、おかしいと気づいた時などは職員間で話し合いを行いその人に適切な方法を見つけて支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関の地域連携室スタッフ、看護師、医師との情報交換を密にしてグループホームにすこしでも早く帰って生活できるように話を勧めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の容態や家族の意向に沿った看護を、職員一同が力を合わせ行い安心して納得した終末期を迎えられるように随時お互いの意思を確認しながらケアに取り組んでいる。	重度化や終末期の看取り対応サービス指針を入居時本人・家族に確認し、全職員で外部講師を招いての勉強会を行うなど、随時意思の確認と方針の共有に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	万が一の対応の為、事業所の一番見やすい場所にAEDを設置し勉強会を実施、体験習得するようにしている。急変時のマニュアルを周知徹底を図っている。又、看護師にいつでも連絡が取れるように専用携帯を持参している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の入居者様との避難訓練を行っている。運営推進会議で協力を呼びかけている。	消防署の方に来てもらい、火事を想定しての訓練を実施し、入居者が安全に避難できる方法を身につけているが、事業所裏山のため池や土石流が心配なので災害対策を考えている。	火事は予防も出来ますが天災は予想がつきません。土石流やため池の氾濫等の避難方法も火災時とは異なると思われます。地域との協力体制を築きながら災害対策に取り組まれる事を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを大切にイベント参加時等の声かけ誘導時は自己決定しやすい言葉かけをしている。	馴れ合いになりやすい日々の中で本人の尊厳を無視した対応にならない様又、一人ひとりのプライバシーを損なわない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	イベント、食事等でスタッフの決めた事を押しつける事をしないで入居者様自身で決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりの生活ペースを大切に、入居者様に合わせた対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を心がけ季節に合わせた服装が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ等、その人が出来ることを職員と一緒に手伝ってもらっている。	3食とも手作り食。手伝いが可能な方には職員と一緒に調理、下膳等をしてもらい、食事が楽しむことができるよう支援している。訪問日に誕生日の方がおられて、本人がケーキづくりを手伝わっていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を記録し健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の状態に応じた援助方法で口腔ケア、声かけをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録し、その人の排泄パターンを確認しながら誘導や声かけをしている。	さりげない誘導と対応で男・女入居者それぞれ個々に添った排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、牛乳などの摂取、栄養バランスの良い食事、水分をしっかりと取るなどして便秘予防を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に応じて、夜間の入浴を取り入れたり、一人で入っていただいたりスタッフは外で見守りし、安心感を持っていただく工夫をしている。	日中の入浴拒否の方に職員配置を考えて、夜間入浴の支援をする等、一人ひとりの入浴を楽しむことができるよう支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ日中の活動を促し、夜間良眠出来るように生活リズムを整える支援をしている。眠剤を飲まれている方には睡眠状態等歩行状態を確認して転倒防止に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や、薬情報をファイルしていつでも内容が確認でき服薬時には本人に手渡し服薬が出来ている事を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の楽しみ、役割を発見して生きがい作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の人数を考慮し、入居者様の希望に出来る限り添えるように支援を行っている。	毎日散歩に出かける入居者もあり、日常的な外出と季節ごとの行事での外出や外食を兼ねてのドライブを月2～3回計画し外出支援に努めている。。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談しながら自ら管理していただいたり、必要時には、管理者ノートを作ってスタッフ2名で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状をスタッフと一緒に書いたり入居者様の希望に応じ日常的に電話や手紙を出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険防止の為に、出来る限り必要品以外は設置しないで広い空間を保っている。又、一部のコーナーにはお年寄りにとって懐かしさを感じる昭和コーナーを設けて骨董品を設置している。	共用の空間は広々としていて畳の間もあり、ゆったりとしたソファとテーブルには季節の花が飾られ、落ち着いて過ごせるよう工夫している。入居者に昭和を感じてもらいたい品々の展示コーナーもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホール、畳の間には絵画や花などの装飾で居心地の良い空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の意向を確認しながらその人らしく居心地の良い居室作りに取り組んでいる。	入居時に家族の方と一緒に家具等の配置をされたり、奥さん手作りの作品が飾ってある等それぞれの方の居室には居心地よく過ごせるような工夫がしてある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身機能の状態変化に考慮し、現在の状態に応じて車いすの利用又は椅子の利用等の生活環境を考えた支援をしている。		